

第 35 回基準諮問会議

2019 年 3 月 7 日に財務会計基準機構（FASF）において第 35 回基準諮問会議（議長 湯浅一生 富士通(株) 執行役員常務）が開催され、審議が行われました。詳細については、財務会計基準機構ホームページ（https://www.asb.or.jp/jp/project/standards_advisory.html）において「議事概要」を公開していますのでご覧ください。

（審議事項）

1. テーマ提言について

（1）前回までの基準諮問会議における提案について

（会計基準レベルのテーマについて）

基準諮問会議事務局より、前回までの基準諮問会議において市場関係者より提案されたテーマのうち、「財務諸表を継続企業の前提に基づき作成することが適切であるかどうかの判断規準の作成」については、基準諮問会議事務局での検討結果を踏まえて、企業会計基準委員会（ASBJ）の新規テーマとして提言することを提案する旨の説明がなされた。

基準諮問会議の委員からは、事務局の提案に賛同する意見が多く聞かれた。

これを受け、議長より、事務局の対応案どおり、「財務諸表を継続企業の前提に基づき作成することが適切であるかどうかの判断規準の作成」について ASBJ の新規テーマとして提言する旨の発言がなされた。

（実務対応レベルのテーマについて）

基準諮問会議事務局より、前回までの基準諮問会議において市場関係者より提案されたテーマのうち、「企業結合会計：暫定的な会計処理の確定時における比較年度の財務諸表に関する取り扱い」については、実務対応専門委員会のテーマ評価の結果を踏まえ、現時点では ASBJ の新規テーマとして採り上げるには至らないとし、「過去に審議を行ったが提言に至らなかったテーマ」として取り扱うことを提案する旨の説明がなされた。

基準諮問会議の委員からは、今後の状況についても注視してほしいという意見も聞かれたが、事務局の提案には賛同する意見が多く聞かれた。

これを受け、議長より、事務局の対応案どおり、「過去に審議を行ったが提言に至らなかったテーマ」として取り扱う旨の発言がなされた。

（2）新規テーマ提案について

基準諮問会議事務局より、今回の基準諮問会議に寄せられた新規テーマの提案「金利指標改革に起因する会計上の問題について」について、その内容及び基準開発の可否を含めて適時に ASBJ

で検討を行うよう包括的に新規テーマとして提言することを提案する旨の説明が行われた。続いて、提案者である全国銀行協会の大波多基準諮問会議委員より、提案理由について補足説明がなされた。

基準諮問会議の委員からは、事務局の提案に賛同する意見が多く聞かれた。

これを受け、議長より、事務局の対応案どおり、基準開発の可否を含めて適時に ASBJ で検討を行うよう包括的に新規テーマとして提言する旨の発言がなされた。

(3) その他

法務省より、正式なテーマ提案ではないものの、今後、テーマ提案を行う可能性があるものとして「株式報酬に関する会社法制の見直し」について、説明がなされた。

基準諮問会議の委員からは、株式報酬に係る会計処理について検討を行うことは望ましいのではないかといった意見が聞かれた。

これを受け、議長より、「株式報酬に関する会社法制の見直し」は正式なテーマ提案ではないものの、今後、正式なテーマ提案を受けた場合は、基準諮問会議として検討する旨の発言がなされた。

2. ASBJ の最近の活動状況について

ASBJ 小野委員長及び小賀坂副委員長（役職名は開催当時）から、日本基準を国際的に整合させる取組みを中心に、ASBJ の最近の活動状況についての報告が行われた。基準諮問会議の委員より、リースに関する会計基準の開発に向けた検討に着手するか否かの検討に対する意見が出された。